

布教教化に関する告諭

今、世界が抱える諸問題は、複合的かつ重層的なものです。基本的な人権としての平和な暮らしや命の尊厳が脅かされる危機的な状況は、広がる一方と言っても過言ではありません。

一仏両祖を信奉する私たちは、確かな道を知っていなければならないのです。

お釈迦さまは縁起の理法をさとられ、一切を正しく観察される智慧と、他者との和合調和は慈悲によって成ることを、身を以てお示しく下さいました。それは、我利・我欲を離れる私たちの生き方だったのです。

道元禪師は「回光返照の退歩を学すべし」とお示しです。

歩みを止め、息を調べ、二歩も三歩も退いて、自らが行いを仏道に照らし謙虚に顧みよ、と説いておられます。

瑩山禪師は「必ず和合和睦の思いを生ずべし」と示されました。

和合調和を乱すのは、何時の世も人間の我利・我欲、すなわち貪りであります。その貪りこそが苦悩の源であり、対立闘争の根源なのです。

無常無我の世なればこそ、日月は私無く一切を照らしております。私たちも、至心に万事万縁と関わってゆきたいものです。

合掌は、御仏に自らを重ね合わせることです。そして、御仏をこの身に頂く坐禪に親しみ、世界中の人びとが誰一人取り残されることなく、安らかに暮らせるよう、祈り、念じ、共どもに菩薩行を進めてまいりましょう。菩薩の誓願に生きることが、苦悩の世を安楽の世にする真の道であります。

大本山總持寺開山太祖瑩山紹瑾禪師七〇〇回大遠忌法要をご縁として、和合のみ心を我が心、和合のみ教えを我が行いとして、太祖さまに見えようではありませんか。

合掌

南無釈迦牟尼仏

南無高祖承陽大師道元禪師

南無太祖常濟大師瑩山禪師

令和六（二〇二四）年四月一日

曹洞宗管長 南澤道人